

# 科目「国際社会」の開発

## ～国際的視野を持った生徒の育成を目指して～

外国語科 工藤泰三・国語科 塗田佳枝

筑波大学附属坂戸高等学校では、平成23年度入学生から教育課程を改め、設置科目の見直しや科目の新設を行った。本論では新たに設置された科目の1つである学校設定科目「国際社会」の初年度の実践を通し、その活動内容および受講生の変容についてまとめるとともに、次年度以降における科目実施内容の充実に向けた課題を明らかにしたい。

キーワード：教科「国際」 国際社会 国際的視野 持続発展教育(ESD) 教科間連携

### 1. 本科目設置の背景

筑波大学附属坂戸高等学校（以下「本校」）では、これまでのさまざまな取り組みを振り返りながら、総合学科高校における教育のあるべき姿を追求すべく、また平成21年3月に告示された新しい学習指導要領に基づく教育活動の実践に向けて旧指導要領からの移行をスムーズに行うために、各教科・科目の内容や単位数、時間割上の配置などの見直し等を行い、平成23年度入学生より教育課程を改定した。その中で、本校で4つ設置されている科目群<sup>1</sup>の1つである人文社会・コミュニケーション科目群の中に新たに設けられた学校設定科目「国際社会」は、同科目群の「社会のあり方やコミュニケーションに関する基礎的・基本的な知識・技術を習得するとともに、社会の持続可能な発展のために、グローバル社会における諸問題の解決に主体的に取り組む態度を身につける」という目標を達成するための核となる科目として、その科目群を選択した生徒は必ず履修しなければならない「科目群指定科目」に位置付けられている。

本校では筑波大学附属学校「3つの拠点構想<sup>2</sup>」のうちの「国際教育拠点」の実現に向け、平成20年度に校内委

員会である国際教育推進委員会を設置し、国際教育に関するさまざまな活動を実施してきた<sup>3</sup>。これまでも国際教育は各教科・科目などの単位で取り組まれてきたが、国際的な諸問題を考えるとき、そのほとんどがさまざまな分野の事象が関係しあっていることから、ある特定の分野によるアプローチだけではその問題をきちんと理解・解決することは困難である。国際的な視野を持ちながら持続可能な社会の構築に貢献できる人材を育成するために、学校現場においてもさまざまな分野の知見を関連付けながら、異なる教科・科目が手を結んで教育活動にあたる必要性が高まっている。これを実現する手段の1つとして、本校では平成23年度入学生の教育課程から学校設定教科「国際」を設置し、その中に既存の教科の枠の中では扱いにくかった学際的な教育内容を持つ「Discussion & Debate」、「比較文化論」、「Global Studies」の各科目を「国際社会」とともに設けた。

「国際社会」はそれ自体が学校設定科目であり、また同科目が属する教科「国際」も学校設定教科であることから、科目の目標の設定、活動内容の計画、使用教材の用意など、あらゆることが一からのスタートであった。この科目の設置の承認を校内で得る際には、特定の教員に限らずできるだけ多くの教員に関わってほしいという考えから、授業は異なる教科を担当する教員によるチーム・ティーチング(TT)で進めるものとして承認され

<sup>1</sup> 本校における「科目群」とは、2年次以降の履修科目を選択する際に生徒が必ず1つを選択しなければならない「科目の集まり」であり、本校では「生物資源・環境科学」「工学システム・情報科学」「生活・人間科学」「人文社会・コミュニケーション」の4科目群を設置している。生徒は科目選択の際にこの科目群に含まれる科目と、科目群によらない一般選択科目とを組み合わせ、生徒1人1人が自分の時間割を作っていく。

<sup>2</sup> 他の2つは「先導的教育拠点」「教師教育拠点」。

<sup>3</sup> 本校の国際教育活動の詳細については本紀要のpp.57-62を参照のこと。

たが、開講初年度である平成24年度の授業計画を行う際には、他の科目の内容との関連や重複などを見ながら、特に科目の目標については担当者2名の間で入念に協議を行った。

この後本論では、第2項においては今年度の「国際社会」の科目実施概要、第3項においては生徒の感想やアンケートの回答を踏まえての授業内の各活動の振り返り、第4項では本科目によって得られた生徒の変容および今後の課題について述べる。

## 2. 本科目の概要

前述の通り本校の人文社会・コミュニケーション科目群の科目群指定科目、すなわち科目群のコアとなる科目として、まず本科目の設置の目的を「グローバル化が進み、日本も外国との関係を見直さなければならないものがほぼ皆無となっている現代において、生徒には本科目を受講することにより、自国の文化についての理解を深めるとともに、外国事情についての知識を広げ、現代における国際的な課題について主体的に考察するための素地を身につけることを期待する。また、異なる言語を話す人々の間のコミュニケーションでは英語が主に用いられているという現状に即し、授業を基本的に英語で進め、海外の人々とのコミュニケーションをするための基礎能力を身につけることをねらう」と設定した。そして目標としては（ア）日本文化および外国事情について積極的に知り受容しようとする態度を持つことができる、（イ）現代における国際的な課題について認識・考察することができる、（ウ）調べたこと・考察したことを英語を用いて説明・発表することができる、の3つとした。

人文社会・コミュニケーション科目群の選択者は必ずしも英語の使用に前向きな者ばかりではなく、商業科目の選択者を中心に英語の学習や使用に対して否定的な者も少なくない。そのような状況において授業で英語を使用することについては迷いもあったが、前述の科目群目標を実現するために英語の使用は避けて通ることはできないであろう（現代社会がそのような状況にあることの是非についてはここでは論じない）ことから、また近年多くの企業がTOEIC等の英語力の指標を社員採用の際に重視したり、社内公用語を英語と定めたりしている状況において、経済や経営の分野でも今後ますます英語の重要性が高まってくることが容易に想定できることから、思い切って授業は基本的に英語で進めることとし、また生徒のプレゼンテーションも英語を用いて行わせること

とした。

なお、授業における具体的な活動内容については文末の【資料1】を参照されたい。

## 3. 授業の各活動を振り返って

今年度の最後の授業時に、受講生徒に2種類のアンケートに回答してもらった。アンケートAは5つの質問について記述で回答するもの（記名、【資料2】参照）、アンケートBは15の質問に対し14問は4件法で、1問は記述で回答するものである（無記名、【資料3】参照）。本項ではこれらのアンケートの回答内容を踏まえ、今年度の授業で行った各活動を振り返り、改善に向けての課題を明らかにしたい。

まずアンケートAの1で自分にとって最も有意義だったと思う活動について聞いたところ、それぞれの活動が最も有意義だったと答えた生徒の数は表1の通りであった。

授業での活動	人数
新聞のスクラップ	12
Looking at the world ワークシート	3
日本文化プレゼンテーション	1
外国調べプレゼンテーション	6
国際的課題プレゼンテーション	16

表1 最も有意義だったと思う活動

多くの生徒が、新聞のスクラップおよび国際的課題プレゼンテーションが有意義であったと回答している。逆に、ワークシートを用いた活動や日本文化プレゼンテーションについては強く意義を感じている生徒は少数であった。また、アンケートBでそれぞれの活動が有意義であったかどうかを4件法で聞いたところ、表2のような結果となった（最高点が4.0、最低点が1.0、活動名の前の数字は質問項目番号）。

授業での活動	回答の平均
3-1 新聞のスクラップ	3.03
3-2 Looking at the world ワークシート	2.74
3-3 日本文化プレゼンテーション	2.90
3-4 外国調べプレゼンテーション	3.03
3-5 国際的課題プレゼンテーション	3.13

表2 有意義だったかどうかについての回答状況

全体として概ね肯定的な回答ともいえるが、活動によっては有意義であると感じている割合が低いものもある。この点については次年度以降の授業を進める上で十分考慮し、より高い満足度を生徒に与えられるように改善していかなければならないだろう。

次に、各活動について考察してみたい。

### 3.1. 新聞のスクラップ

国際的課題や日本と外国との関係等について、教員が与えるトピックだけでなく自ら情報を探して考えさせる機会とするために、通年の課題として実施した。具体的には専用のノートを準備し、見開きの片面に新聞やネット上から選んだニュースや記事を貼り、もう片面に 200 字以上の考察を日本語で書かせて毎授業時に提出させた。各学期末には提出した記事の 1 つについて、さらなる考察や関連事項の調査を課した。

アンケート B によると、他の活動に比べて「とても有意義 (4 点)」と「あまり意味がない (2 点)」に評価が集中する傾向が見られる。有意義な理由としては、「新聞を読む習慣がついた」「国際問題に興味を持った」「文章力がついた」等があった。課題としては、回を追うごとに提出率が低下したことがあげられる。他科目の宿題との重複も一因ではあるが、意味が見いだせずに提出しなかった生徒もいたのではないかと。アンケートの「マンネリ化する」「毎回は多すぎる」「知識不足で考察ができなかったので調べる時間がほしい」等の記述をあわせて考えると、未提出者への対応や良いノートの共有などの事後指導の充実とともに、記事の選択に関しても機会を捉えて指導する必要があった。マンネリ化や考察に困難を感じるのは、新聞の一面や国際面からのみ記事を探すためであろう。特定の国の記事やその生徒にとって理解が難しい記事の選択が続く場合は、地方面や社会面からも探すように助言すべきであった。1 学期は感想中心だった生徒でも徐々に問題意識、当事者意識をもって考察が書けるようになってきており、継続させることが重要だと言える。そのための手立てを検討したい。

### 3.2. プリント“Looking at the World”を用いた活動

英文の記事を用いて国際的課題について知るとともにその課題について考察するために、英字新聞や雑誌、インターネット上の記事などを利用して担当者がプリントを作成した。当初は 10 以上のプリントを作成する予定であったが、後述する各プレゼンテーションのための活動

に予定以上の時間をかけたため、結局は年間 5 枚のプリントを作成・使用するに留まった。

プリントの基本的な構成は次の通りとした。具体例は【資料 4】を参照されたい。

1. Brainstorming : そのトピックについて自分がどのような意識・知識を持っているかを確認する。
2. Reading : 英文の記事を読み、書かれている内容を読解することによりその課題について知識を深める。
3. Get something from the text : その記事の内容を基に、個人またはグループでその課題について考察する。

また、この活動で取り上げたトピックは次の 5 つであった。

1. Day in the Life: Afghanistan : アフガニスタンの 12 歳の少年がどのような一日を過ごしているかを知り、自身の生活と比べながら、「幸福な生活」とは何かについて考える。
2. Green Tips : 地球温暖化を防ぐための 10 項目を読み、自分たちの生活の仕方と地球温暖化がどのように関連しているのかを考察した上で、各グループで地球温暖化防止に向けた提言を作成する。
3. Living with Lions : ケニアのマサイ族とライオンとの関わりについての文章を読み、ライオンが絶滅したらどうなるかを考察した上で、ライオンとマサイ族の双方の暮らしを守るためにはどうしたらよいかを考える。
4. Standing Ovation for Hijab-Wearing Saudi Woman Athlete : 2012 年ロンドンオリンピックにサウジアラビアから出場した初の女性陸上選手についての記事を読み、性差と宗教、そして異文化との接触について考える。
5. The Price of Pork : 豚肉の価格の上昇についての記事を読み、その原因について知るとともに、地球上のさまざまな事象に関わりあって私たちの生活に影響を与えていることについて意識を高める。

アンケート A の 1 での生徒の記述回答を見ると、「新しい言葉を覚えられたり、内容がわかったときには達成感を感じることができた」「考察するときに他の人が自分と

は違った視点を持っていることがわかり面白かった」「世界で起こっていることが日本にも関係していることを学んだ」「初めて聞く問題ばかりですごく勉強になった」「問題解決について考えることができた」「日本であまり知られていない問題について知ることができ、改めて世界のことに興味を持てた」など、国際的課題についての意識の変容について述べている生徒が多かった。またアンケートAの2で、この授業で扱った話題の中で最も興味・関心を持ったものを挙げさせたところ、上記トピックのうち4と5を挙げた者がそれぞれ5名以上いた。この2つのトピックに共通していることは「普段からなじみのあることが、実は知らなかったことと結びついているということを知る」という点であり、このことは今後のトピック選択において重要なポイントとなるであろう。

なお、表2にもあるように、この活動は生徒に十分意義を感じさせることができなかった。アンケートの記述回答からこの活動についての否定的な意見を拾い上げてみると「英文が難しい」「訳してくれないので理解が不十分」などの英語そのものについてのもの、そして「正解がないのでモヤモヤしてしまう」「ディスカッションやディベートをもっとしっかりやった方がよかったと思う」といった授業の進め方についてのものがあつたことから、英文のレベルを生徒に合わせるか、よりよく理解できるよう工夫を加えること、そしてそのトピックについて十分な考察を行うための時間を取ることの2つが改善点と言えよう。

### 3.3. 日本文化プレゼンテーション

「異文化理解はまず自分のもつ文化を理解することから」という意識に基づいて、1学期は各グループに日本文化について何か1つテーマを決め、それについて英語でプレゼンテーションを行わせた。2年次は12月にオーストラリア校外学習が予定されていたこともあり、日本の文化を英語で説明できるということは異文化交流においてとても役に立つと考えたのである。生徒たちは十二支や百人一首、ひな祭り、おせち料理などをテーマとして、5月に1回プレゼンテーションをし、質疑応答やアドバイスをもとに修正を加えて同テーマで6月にもう1回プレゼンテーションを行った。

ほぼ全員の生徒にとって英語でプレゼンテーションをするのは初めての経験であり、またプレゼンテーションを行うこと自体にもあまり慣れていないこともあって、ずいぶん苦勞していたようであるが、「日本文化を振り返ることができて良かった」「パワポ（パワーポイントのフ

ァイル）の作り方がわかってよかった」といった肯定的な意見が生徒から寄せられた。アンケートA・B双方を見ても否定的な記述は見当たらず、また表2を見ても本活動の意義をそれなりに感じてくれていることがわかる。

ただ、この活動の内容は同科目群内の選択科目「ことばと文化」（国語科）と重複するところがある（日本語を使うか英語を使うかという大きな差はあるが）。「国際社会」選択者の約3分の2が「ことばと文化」も選択することから、次年度以降はこの活動を省き、他の活動にもっと多くの時間を当ててはどうかという意見も担当者間では出ている。この点は今後の検討材料である。

### 3.4. 外国事情プレゼンテーション

3学期の国際的課題プレゼンテーションに向けての下地づくりとして、外国について調べプレゼンテーションを行う活動を2学期に設けた。生徒には「各グループ1つずつテーマとする国を選び、その国について調べた内容を10分程度のプレゼンテーションにまとめる（英語使用、パワーポイント使用）。発表する内容にはその国の基本情報（国名・位置・首都・人口・宗教・主要な産業など）とともに、その国と日本との関係（貿易・観光など）、文化的特徴、その国が抱える社会問題などを含むこととする」という指示を与えた。

生徒が選んだ国にはスペイン・フランス・イタリア・シンガポールなど日本でもなじみの深い国もあれば、アンドラ公国・ツバル・ブータンなどなじみの薄い国もあり、プレゼンテーションはバラエティに富むものとなった。なじみの深い国を選んだグループの生徒は「調べれば調べるほど知らなかったことが出てきて、一層興味を持った」「その国に関するいろいろな分野の情報を調べることで、その国に対する理解が一層深まった」など、なじみの薄い国を選んだ生徒は「インターネットや書籍などで調べても情報に乏しく、直接大使館にアポを取ったことが貴重な経験となった」などの肯定的意見を回答している。

「外国のことを知りたい」というのは多くの生徒が持つごく普通の欲求であると思うが、「どんな料理があるか」「どんな服を着ているか」などの表面的なことだけでなく、「その国と日本はどのような関わりを持っているか」「その国はどのような問題を抱えているか」というところまで調べさせることにより、より深く外国事情を理解するきっかけを生徒たちに与えられたのではないかと思う。アンケートの回答を見ても、この活動に否定的な回答はわずかであった。

### 3.5. 国際的課題プレゼンテーション

本科目の学習の1年間の集大成として、国際的な課題についてプレゼンテーションを行う活動を3学期に設定した。生徒には「2学期の各グループによる発表の中で挙げられた各国の社会問題のうち、国際的視野に立って考察すべき課題を取り上げ、多角的な考察を行うとともに、英語を用いて自身の意見を述べる」ように指示をした。日本文化および外国事情のプレゼンテーションでは生徒たちに自由にグループを作らせたが、今回は異なるメンバーとも上手にグループワークをする力を身につけてほしいということを考え、あらかじめ教員が2学期の外国事情プレゼンテーションを基に6つのテーマを決め、生徒1人1人に自分が興味を持つテーマを選ばせ、同じテーマを選んだ生徒を同じグループにするという形式をとった。6つの設定テーマおよびそれぞれのテーマを選んだ生徒の数は表3の通りとなり、5人のところは1グループ、それ以外のところは2グループを教員の指名により作った。

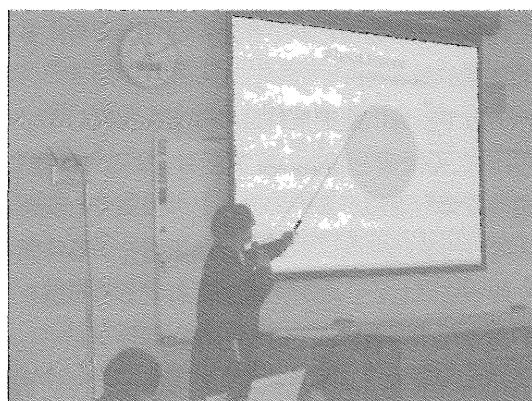
テーマ	選んだ生徒の数
Racial discrimination in France (フランスの人種差別)	11
Loss of the national land in Tuvalu (ツバルの国土喪失)	5
Decrease of the crop in Bhutan (ブータンの農作物収穫量の減少)	0
Water problem in Singapore (シンガポールの水問題)	5
Lack of doctors and nurses in Denmark (デンマークの医師・看護師不足)	8
Drug problem in Mexico (メキシコの麻薬問題)	10

表3 国際的課題プレゼンテーションのテーマ

生徒たちは2月上旬に一度発表を行い、全8グループの中から評価の高かった4グループを選び、2月下旬の本校の総合学科研究大会における授業公開において2回目の発表を行わせた。選ばれなかったグループには自分たちの発表内容をまとめたポスターを作成させ、授業公開のときに掲示した。発表内容は原則として次のような4部構成とすることとした。

1. Problem : 原因や理由を含め、その問題の概要を説明する。
2. Solution : その問題を解決あるいは改善するための方法を提案する。
3. Expected outcome(s) : 2.の提案を実行することでどのような効果・結果が期待できるかを述べる。
4. Challenge(s) : その提案を実行する上でその妨げとなる問題、あるいは実行したとしても残りうる問題について考察して述べる。

3学期は1・2学期と比べ期間も短く、また各種行事



国際的課題プレゼンテーション

もあって忙しい中、生徒たちは互いに協力しながら準備を進め、どのグループも1学期のときよりも内容・技術とも数段上のプレゼンテーションを行うことができた。仲の良い者同士でグループを組ませるのではなく、その問題に興味を持っている生徒を集めてグループを作ったこと、男女比や普段の親密さなどでできるだけ偏りがないようにグルーピングしたことが効を奏したことに加え、これまで行ってきたプレゼンテーション活動での取り組みがこのプレゼンテーションに生きていることを担当者・生徒ともに感じる事ができた。表1・2からもわかる通り、この活動が有意義だったと感じている生徒は多く、次年度以降もこの活動を本科目の「まとめの活動」として位置づけていくべきであろう。

アンケートAの1からこの活動についてのコメントを見てみると、「1年間を通して学んだことを生かした」「テーマに興味あることだったので楽しく取り組めた」「ある問題には様々な側面があることを学ぶことができた」「あまり関わりのなかった人との協働作業が良い経験となった」「メンバーと何度も議論し、その国の抱える様々な問題について考えることができた」「今までで一番時間を費やしたプレゼンとなったが、プレゼンまでの過程がとて

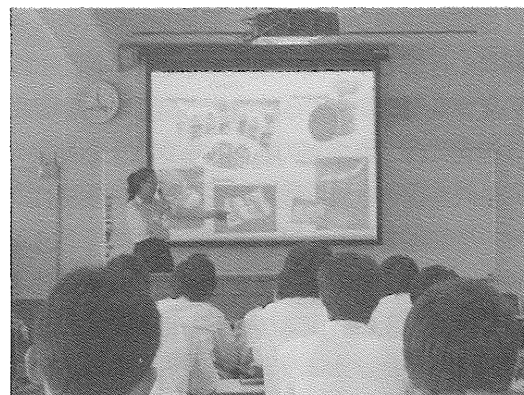
も勉強になった」「国際問題が多くのこととつながりを持っていることを再確認できた」「日本が本当に恵まれている国だと感じた」「(自分たちが扱った)問題が予想以上に根深いことを知った」「さまざまな人の立場からその問題を考えることができた」「今まで国際関係のニュースを見て『大変だなあ』としか思っていなかったことも、このプレゼンをやることでその問題について深く考えようとするようになった」「解決策を考え、そこからまた起こる問題まで考えるというのはすごく勉強になった」「プレゼンのやり方も定着し、また時間をかけて仲間と協力して準備できた」「休み時間や放課後に情報交換をしたり図書館に行ったりすることができた」など、非常に多くの肯定的意見があった。

その一方で、特に商業系科目の授業を選択している生徒からは「この授業と商業の授業と両立するのは難しい」「商業の授業も課題が多いのに、この授業でも課題が多いと大変」「授業時間内にプレゼンの準備をする時間をしっかり取ってほしい」など、課題に対する負担感を示す回答があったことも忘れてはならないだろう。

### 3.6. ゲストスピーカーによる講演

機会があれば異文化や外国事情に詳しい方を授業に招き、生徒に講演をしていただきたいという希望を開講当初から抱いていたが、今年度(平成24年度)は2人の方に講演をお願いすることができた。

1人目は本校の4年次生(以下「生徒A」)で、昨年の夏からオランダに留学しており、今年度の夏に帰国していた生徒である。この生徒とは担当者がFacebookで留学開始時からやり取りをしており、その中で「帰国したら私の授業でオランダの話をしてよ(英語でね)」という旨を伝えてあったため、帰国後改めて依頼したところ快諾してくれた。オランダという国も日本人にとっては「知っているようでよく知らない国」であり、学校のこと、食べ物のこと、言語のこと、その他いろいろなことについて英語で話をしてくれた。生徒からは「生活習慣や授業スタイルの違いがよくわかった」「日本であまり学ばれていないことを学びたいと思った」「海外の生の情報を与えてくれたことは貴重だと思った」などの感想が寄せられた。平成25年3月現在、本校には海外留学中の生徒が4名(アメリカ1名、インドネシア2名、ニュージーランド1名)いるので、それらの生徒が海外で知った・学んだことを他の生徒と共有する良い機会として本科目がこれからも機能していくとよいのではないかと考えている。



生徒Aのオランダ紹介

2人目は本校生徒の保護者であり、NPO法人ハヤト代表理事を務める松村香氏である。ハヤトは新疆ウイグルに住む人々に対する支援を行っている組織であり、松村氏には新疆ウイグルがどのようなところか、人々はどんな暮らしをしているか、中国政府あるいは漢民族とどのような関係にあるのか、そしてどのような問題が今起っているのかなどを、ウイグルの人々の魅力を交えながら紹介してくださった。この講演には多くの生徒が衝撃を受けたようで、アンケートAの2で「最も興味・関心を持った話題」として「新疆ウイグルの民族問題」を挙げた生徒は17名と最多であった。生徒のコメントにも「経済が急速に発展している裏でこのようなことが起っていることに衝撃を覚えた」「いろんな意見を持っている人がいて、自分との違いも見つけられた」「中国政府による弾圧が想像以上にひどいことに驚いた」「人権が尊重されないのはとても悲しいことだと感じた」「他の国々が協力して問題解決にあたるべきだと思った」「近隣国で起っていることに對し私たちが何ができるのかを考えることが必要だと感じた」「松村さんのように、大きな問題でも少しずつ支援していくことが大事だと思った」「これからはウイグルの記事やニュースには注目していきたい」など、強い印象を受けたことを示すものが多かった。松村氏には可能であればまた次年度以降も講演をお願いし、隣の国でこんなことが起きているという衝撃的な事実を生徒たちに伝えていただきたいと考えている。

これらの方々に授業に招いて講演をしていただくことの最も大きな意義は「実際に経験・体験したことをその人自身が語る」ことにあり、その経験や体験は授業担当教員には持ち得ないものであるということである。実際に、教員にとってもゲストスピーカーの講演は非常に大きな示唆を与えてくれるものであり、教員の研修会でもぜひ講演をお願いしたいほどである。いつもそのような

機会に恵まれるとは限らないが、可能な限りさまざまな経験を持つ多くの方々の話を聞く機会を生徒に提供したいと考える。

### 3.7. 高校生国際 ESD シンポジウムへの参加

10 月下旬から 11 月上旬にかけて本校ではこれまで交流のあった 4 カ国 5 校生徒・教員を招待し「高校生国際 ESD シンポジウム@坂戸&つくば 2012」を開催した<sup>4</sup>。そのサポートメンバーとして参加してくれる生徒を本科目の受講生から募ったところ、計 12 名の生徒が応募してくれた。この生徒たちは会場の設営、歓迎会の企画、文化交流会の企画などに力を注いでくれるとともに、自身たちも海外からの生徒との交流を深めた。参加した生徒からは「海外の生徒が母国語ではない英語を使ってしっかりと発表しているのを見て、自分も頑張ろうと思った」「他の国の人と接することがとても面白いことに気が付いた」「自分たちが用意した交流会で海外の人たちに喜んでもらえてうれしかった」などの感想が寄せられた。中にはこの経験がきっかけとなり 3 年次の卒業研究のテーマを決めた者も数名おり、海外の人々との接触が生徒たちの意識に与える影響が大きいことを示していると言える。



文化交流でフィリピンの遊びを教わる

### 3.8. その他

上記以外にもいくつか本科目の活動として行ったことがあるので、その概略を紹介しておく。

1. 「アジア隣人プログラム」<sup>5</sup>におけるインドネシア高校生との交流：同プログラムで来日したインドネシア高校生を本科目の授業に招き、生徒との

交流を行った。ちょうどその時に使用していたプリントがイスラム教に関する内容（3-2 で紹介したプリントの 4 “Standing Ovation for Hijab-Wearing Saudi Woman Athlete”）であったので、実際にヒジャブを着用する女子生徒と直に接するのはタイムリーなことであった。時間があれば「イスラム教の国の女性がスポーツをすること」について両校生徒でディスカッションをさせる計画をしていたが、それぞれの自己紹介と質疑応答で盛り上がり、ディスカッションを行うことはできなかった。

2. 夏休み明けの課題“What I thought in summer”：9 月の初回の授業で、「国際的な視点から夏休み中に思ったこと・考えたことを書きなさい」という課題を与えたところ、ちょうどロンドンオリンピック・パラリンピックが開催されていたので、そのことについて書いた生徒が多かったが、中には経済問題や領土問題を挙げるもの、さらには「自分の国際的な話題のニュースや記事を見る目が変わったように思う」など自分の変容について述べる者もあり、この段階で少しずつ生徒にこの授業の影響が出始めたことを知ることができた。
3. 定期考査：生徒が国際的課題に対してどのような意識を持ちどのような考えを述べられるようになったかを測るべく、本科目でも各学期末に定期考査を行った。問題数は 3～4 問で、2 問は日本語で、1～2 問は英語で論述回答する形式をとった。解答に正解はなく、採点は「課題に対し主体的に考察できているか」「各事象の関わりを認識できているか」などの観点を設定して行い、英語解答については文法等の誤りは採点対象とはせず、内容面で評価を行った。採点の基準や方法などで生徒から異論や不満が出ることはなかったが、3-2 で述べた通り、正解がない（というより「正解が無数にある」）ことに対して違和感を覚える生徒が数名いたようである。考査で教員が何を測ろうとしているのかをより明確に生徒に伝えておく必要があったかもしれない。

### 4. 本科目による生徒の変容

現在、筑波大学附属学校教育局プロジェクト研究 4（座長：石隈利紀教授）において国際教育活動による生徒の変容を測定するための質問紙の開発を進めている。その

<sup>4</sup> このシンポジウムの概要については本紀要の pp.59 を参照のこと。

<sup>5</sup> 「アジア隣人プログラム」の概要については本紀要の pp.58 を参照のこと。



予備調査として、開発途中の質問紙（5件法、【資料5】参照）を用いて、本校の2年次生を対象に、平成24年12月に行われたオーストラリア校外学習の事前と事後で生徒たちにどのような変容が現れたかを調査した。

その調査の結果から、学年全体の傾向と「国際社会」受講者の傾向との差異を概観することに加え、生徒の興味・関心が最も強く表れるであろう各生徒の卒業研究のテーマを年次間比較すること、さらにアンケートAの3「この授業を受講することで自分の中に生じた変化について述べなさい」への回答を概観することにより、生徒たちが「国際社会」を受講することでどのように変容したのか考察してみたい。

#### 4.1. 質問紙調査から

2年次生全体（有効回答152、「国際社会」受講者を含む）と「国際社会」受講者39名のそれぞれの回答を校外学習の事前・事後で比較した際、後者の方が特に肯定回答が増加した（全体と比べ増加の差が大きかった）のは下記の各項目であった。なお、()内の数字は前者が「国際社会」受講者の、後者が2年次生全体の肯定回答平均ポイントの増加を示し、Rは逆転項目を示す（数値は肯定回答と否定回答を逆転処理したもの）。

- 外国で起きたいくつかの歴史的事件について説明できる (+0.37/+0.15)
- 世界にどのような宗教があるか知りたい (+0.35/+0.07)
- 自分の考えを異なる人に対し自分の意見を言える (+0.36/+0.16)
- 他人の意見と自分の意見の相違がわかる (+0.32/+0.08)
- R世界平和の維持に関心がない (+0.42/0.15)
- 廃棄物による土壌・水・大気の汚染状況について知りたい (+0.18/±0)
- 海外経験を経て、日本にいる外国人に話しかけやすくなった (+0.23/±0)

これを見ると、オーストラリア校外学習という1つのきっかけから、「国際社会」の授業が生徒に対し歴史や宗教、平和、環境などに高い関心を持つようにさせるとともに、自分と他者との相違を受容する態度を持つように促し、生徒が外国人に対して持つ心理的フィルタを低減する作用があると言えるかもしれない。

#### 4.2. 卒業研究のテーマ設定から

本校で3年次に全員が行う卒業研究は、そのテーマを生徒自身が決定し研究を進めることから、生徒個々の興味・関心が最も強く表れるものの1つと言ってよいだろう。そのテーマの設定状況を平成23年度の人文社会・コミュニケーション系列選択者である3年次生と平成24年の「国際社会」選択者（＝人文社会・コミュニケーション科目群選択者、テーマは「プレ卒業研究」の段階のもの）とを比較することによって、「国際社会」という授業がが生徒の興味・関心にどのような影響を与えているかを推察してみたい<sup>6</sup>。

「国際社会」とかかわりが深い3つのキーワード、「外国事情（日本との比較を含む）」「国際的課題」「英語（または外国語）」のそれぞれに関するテーマを選んでいる生徒の数は表4の通りであった。

	H23 3年次	H24 2年次
該当する生徒数	35	39
外国事情	3	6
国際的課題	2	2
英語または外国語	1	3

表4 卒業研究テーマ設定の違い

母数が少なく一概には言えないが、外国に関することや外国語に対する関心が高まっていることが推測できる。

#### 4.3. 生徒のアンケートへの記述回答から

「国際社会」の授業を受けたことによる自身の変容については、プレゼンテーション技術（話し方、スライドの作り方など）の向上を挙げるものも多かったが、ここでは生徒の姿勢・態度、考え方などについての回答に絞って取り上げてみたい。主な回答は次の通りであった（重複あり）。

- 「ニュースや新聞などの国際関係の報道をよく見るように（関心を持つように）なった」など：20名
- 「つながりを意識するようになった」など（さまざまな事象のつながり、日本と世界のつながり、国家

<sup>6</sup> 比較対象を平成24年度の3年次としなかったのは、その年次が系列・科目群にとらわれないテーマ設定を許容しており、系列・科目群での学びを軸にテーマ設定をするよう促している2つの年次を比較した方が妥当性が高いと判断したためである。



間・民族間のつながりなどを含む) : 17 名

- 「ある問題を考えるときに多面的な考えができるようになった」など(2 国間の問題で両国の立場で、ある解決策に対してよい面と悪い面を、など) : 5 名
- 「生活の中で外国や他の文化に関係のあることに興味を持つようになった」など : 3 名
- 「国際的な問題について家族や友人と話し合うようになった」など : 3 名
- 「よくわからないことを自主的に調べるようになった」など : 2 名

「つながり」への意識については初回の授業でのオリエンテーションから最終回の授業に至るまで強調し続けてきたことであり、その意図がある程度生徒にも伝わっていると判断してよいだろう。報道に対する意識の向上については、新聞記事のスクラップ課題が効を奏しているのではないかと推測できる。ただし多くの報道記事に接する際に重要なのは批判的・多面的な目を持つことであり、そのためには「多面的な考えが…」や「よくわからないことを自主的に…」といった回答をする生徒が今後さらに多くなるように工夫を続けたい。

## 5. 今後の課題

教科「国際」の中核に位置づけられる本科目であるが、1 年間の実践を通していくつかの課題が浮かび上がった。その課題を次年度以降の本科目の改善・充実のためのポイントとして、まとめて代えて明確にしておきたい。

- **科目の目的・目標の明確化** : 3-2 や 3-8 で述べたように、本科目は「正解のない(正解が無限にある)」科目であり、知識を蓄積するための科目ではなく、これから国際社会で生きていくための姿勢や考察能力を高めることをねらうものである。このことは当然初回の授業でのオリエンテーションの際に説明し、また機会あるごとに説明したものの、アンケートの回答からはこのことをよく理解していないと思われる生徒が数名いることが明らかになった。評価方法を含めて、生徒たちにより効果的にこのことを意識させる方法を今後検討していく必要があるだろう。
- **他の科目との関連** : 3-3 で記したように、本科目の日本文化に関する活動と「ことばと文化」の活動と

が重複する部分があるので、多少の重複はあったとしても重複しすぎないように注意する、あるいは日本文化に関する活動を本科目に取り入れるかどうかについて検討する必要があるだろう。また、3-5 で述べたように、特に商業系の科目を選択している生徒の多くから「課題の負担が大きい」という声が上がっていることから、本科目の担当者と商業科の先生方とが互いの授業でどの程度の課題を出しているのかなどをチェックしながら、課外での学習活動の負担を調整していきたい。さらには、次年度から3 年次でも国際科の科目が開講されることから、2 年次科目と3 年次科目との接続についても今後の検討が必要となる。

- **英語使用の比重** : 人文社会・コミュニケーション科目群の選択者は国語・外国語などの科目を中心に選択する通称「人文系」と呼ばれる生徒と、商業科の各科目を中心に選択する通称「商業系(ビジネス系)」と呼ばれる生徒に分かれる。このうち、特に商業系の生徒たちからは「もともと英語が苦手(嫌い)なのに、英語で授業を進められても理解できない」「英語でやらなくてもいい内容なのではないか」などの声が聞かれた。『国際社会』は英語を使って進める」ということが定着してしまえばこのことは解消されるのかもしれないが、英語の使用については今後実践を重ねながら担当者間で検討していきたい。
- **教材の準備** : 3-2 で紹介したプリントはすべて担当者のオリジナルであるが、英文は Time for Kids や National Geographic などのインターネット上のサイトの文章、あるいは洋書の文章などから引用して作成している。特定の教材を生徒に購入させて使用することも可能ではあるが、これまでのところ英文で書かれ、時事問題が新鮮で、英文が比較的平易である適切な教材が見つかっていない。特に時事問題については新鮮さが重要なポイントであり、それを重要と考える限りは特定の教材を購入・使用するの難しいであろう。しかし、その都度教材を作成していくことには、まさに「1 週間前の(あるいは昨日の)ニュースを教室で題材にできる」という点もある。負担は大きいかもしれないが、ダイナミックな授業の構築のためにはやむを得ないのかもしれない。
- **自主性の涵養** : 4-3 で紹介したように、本科目で学んだことや身につけた姿勢を実生活の中でも応用

している生徒がいる。しかしその人数は（少なくとも「そうしている」と回答した人数は）まだ少ない。この人数を増やし、国際社会の中でいろいろな事象を主体的に考えられる生徒を多く育てていきたい。

- **担当者の配置**：現在のところ、本科目は外国語科教員1名と国語科教員1名のTTで担当することとしている（第1項参照）が、外国語科以外の教員にとっては英語使用が負担になるかもしれない。反面、高校の教員であれば誰でも担当できる科目であることから、より広い範囲の先生方に担当していただきたいという考えも持っている。これから数年は新科目の開発という側面から大きな担当者の変更は避けるべきかもしれないが、ゆくゆくは本校の教員ならだれでも担当できるような状況を作れるように尽力していきたい。

#### 【参考・引用文献】

- 石森広美（2012）.「学校設定科目『グローバルシティズンシップ（GC）』の成果と課題～生徒は授業から何を学んだのか～」. 第49回全国国際教育研究大会・分科会4発表. 主催：全国国際教育研究協議会.
- 工藤泰三ほか（2012）. 平成23年度国際教育推進委員会活動報告.「研究紀要」第49集 pp.53-60.. 筑波大学附属坂戸高等学校.

【資料1】平成24年度「国際社会」シラバス（生徒に配布したもの）

国際科「国際社会」（人文社会・コミュニケーション科目群2年次指定科目）

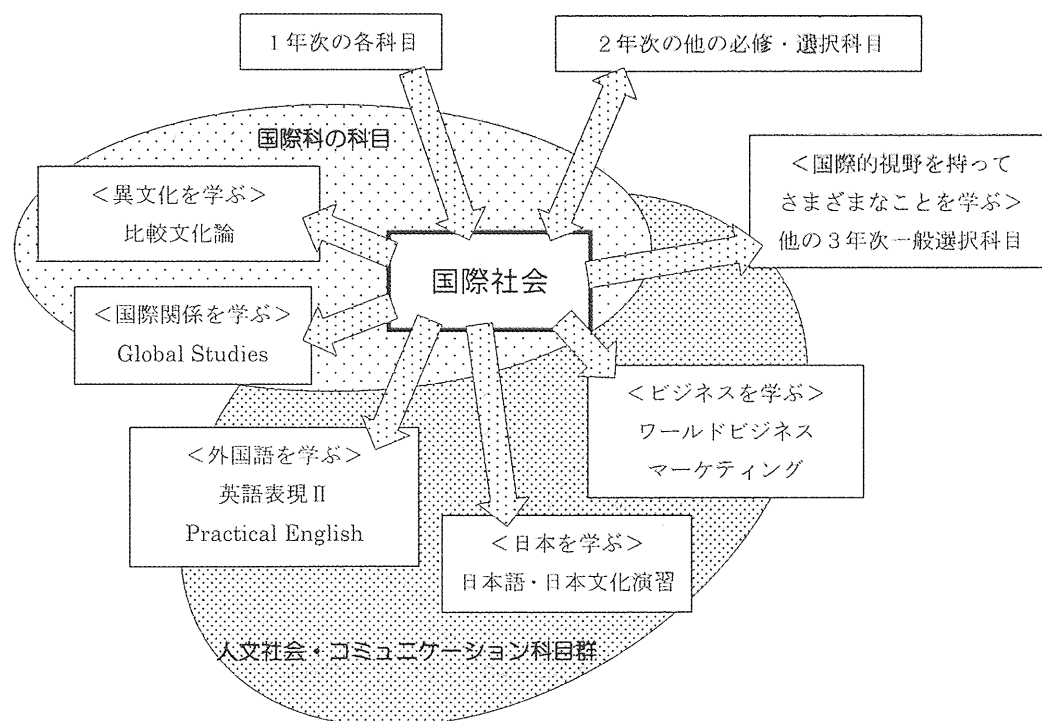
2012（平成24）年度シラバス

授業担当者：上藤泰三（外国語科）・塗田佳枝（国語科）

1. 本科目の目的

本科目は、今年度より開設される学校設定教科「国際」の1科目であり、人文社会・コミュニケーション科目群の科目群指定科目として設置されている。グローバル化が進み、日本も外国との関係を無視して捉えられるものがほぼ皆無となっている現代において、生徒には本科目を受講することにより、自国の文化についての理解を深めるとともに、外国事情についての知識を広げ、現代における国際的な課題について主体的に考察するための素地を身につけることを期待する。また、異なる言語を話す人々とのコミュニケーションでは英語が主に用いられているという現状に即し、授業を基本的に英語で進め、海外の人々とのコミュニケーションをするための基礎能力を身につけることをねらう。

2. 本科目と他の科目との関連



3. 本科目の目標

- (ア) 日本文化および外国事情について積極的に知り受容しようとする態度を持つことができる。
- (イ) 現代における国際的な課題について認識・考察することができる。
- (ウ) 調べたこと・考察したことを英語を用いて説明・発表することができる。

#### 4. 主な授業内容

【通年】講義：外国事情または国際的問題について述べた英語の文章の読解を行いながら、外国事情や国際的な問題の知識を増やし、また国際問題を考察する上で有用なキーワードを学ぶ。

【1学期】日本文化のプレゼンテーション：ペアまたはグループワークにより、日本文化について各ペア1つずつテーマを決め、そのテーマについて他の生徒にも理解できるレベルの英語を用いて10分程度のプレゼンテーション（パワーポイント使用）を行う。合わせて、発表時の質疑も考慮に入れ、発表した内容を小冊子にまとめる。

【2学期】外国事情のプレゼンテーション：ペアまたはグループワークにより、各グループ1つずつテーマとする国を選び、その国について調べた内容を10分程度のプレゼンテーションにまとめる（英語使用、パワーポイント使用）。発表する内容にはその国の基本情報（国名・位置・首都・人口・宗教・主要な産業など）とともに、その国と日本との関係（貿易・観光など）、文化的特徴、その国が抱える社会問題などを含むこととする。合わせて、発表時の質疑も考慮に入れ、発表した内容を小冊子にまとめる。

【3学期】国際的課題に対する考察：2学期の各グループによる発表の中で挙げられた各国の社会問題のうち、国際的視野に立って考察すべき課題を取り上げ、多角的な考察を行うとともに、英語を用いて自身の意見を述べる。

#### 5. 主な課題

【通年】①新聞記事（ネット上のものでも可）の切り抜き＋考察：毎回の授業時に、新聞記事のうち外国に関する記事を1つ切り抜いてノートに貼り、その記事について200字以上の考察を書く。

②講義内容に応じた課題：内容理解の確認や意見の論述など。

【各学期】各学期の活動に応じた課題：調べ学習、プレゼンテーション準備、まとめの小冊子作成など。

#### 6. 評価方法

(ア) 授業内の活動（40%）：プレゼンテーション\*、小冊子作成、議論への参加など

\*プレゼンテーション評価には生徒による評価を含む

(イ) 課題（20%）：講義課題、新聞切り抜きなど

(ウ) 定期考査（30%）：講義内容に関する問題＋日本語または英語による論述問題

(エ) 平常点（10%）：出席状況、授業への参加態度など

#### 7. 準備するもの（ノートとファイルはまとめて購入します）

- 筆記用具
- 英語の辞書（電子辞書でもよい、英和・和英は必須、英英辞典もあると便利）
- ノート（新聞切り抜き用）
- ファイル（A4）
- その他必要なものは適宜指示

#### 8. その他

- 授業での使用言語は原則として英語とする。個人的に質問する場合やグループ活動中などはその限りではないが、可能な限り英語を用いることを勧める。
- 課題提出については期限を厳守すること。公欠や長期入院など特別な場合を除き、期限を過ぎ

て提出された課題は受け取らない。

9. 年間指導計画

Mon	Day	Lectures	Activities	Assignments	Notes
4	13		Japanese culture		Orientation
	20	Looking at the world 1	Preparation (Prep.)	Reading newspapers	
	27		Prep.		
5	1 (Tue)	Looking at the world 2	Prep.		
	11		Presentation 1-1		
	18	Looking at the world 3	Presentation 1-2		多目的 NG
	25		Presentation 1-3		90 min.
6	1				Midterm exam day
	8	Looking at the world 4	Prep.		
	15		Presentation 2-1		
	22	Looking at the world 5	Presentation 2-2		多目的 NG
	29		Presentation 2-3		
7	6				Term-final exam
9	7	Looking at the world 6	Other countries		
	14		Prep.		
	21	Looking at the world 7	Prep.		
	28				Monday classes
10	5		Presentation 1-1		多目的 NG
	12	Looking at the world 8	Presentation 1-2		
	19		Presentation 1-3		
	26	Looking at the world 9	Prep.		
11	2		Presentation 2-1		
	9	Looking at the world 10	Presentation 2-2		
	16		Presentation 2-3		
	23				Labor Thanksgiving Day
	30				Term-final exam
12	7				Australia Tour
	14	Looking at the world 11	International affairs		
1	11		Prep.		
	18				Entrance exam (no class)
	25	Looking at the world 12	Prep.		
2	1		Presentation 1-1		
	8	Looking at the world 13	Presentation 1-2		
	15		Presentation 2-1		多目的 NG
	21 (Thu)		Presentation 2-2	▽	Open class (Conference)
3	1				Last class

International Society 2012  
Last class worksheet



Review what we have done in this class, answering the questions.

1. この授業で行った活動の中で、自分にとって最も有意義だったと思う活動に○をつけ、その理由を書きなさい。

- ・毎週の新聞の読み問題
- ・Looking at the world ワークシートを用いた活動
- ・日本文化プレゼンテーション (1学期)
- ・外国語・プレゼンテーション (2学期)
- ・国際的問題・プレゼンテーション (3学期)
- ・その他 ( )

2. この授業で扱った話題の中で、あなたが最も興味・関心を持ったものを1つ挙げ、それについての自分の考えを書きなさい。

3. この授業を受講することで自分の中に生じた変化について述べるなさい。

4. この授業で学んだことをこれからの自分の学習や生活にどのように生かせるか、自分の考えを述べるなさい。

5. この授業の受講を後悔に陥めるとしたらどんな言葉で物語るか、書きなさい。(悔めたくない人は書かなくてよい)

Class 2- No. Name:

★各項目とも、欄内に書ききれない場合は裏面に続けてもよい。(その際は項目番号を付すること)。

【資料3】「国際社会」授業アンケートB

国際社会 2012

授業アンケート



今年度のこの授業をふりかえり、下記の質問に答えてください。今後の授業計画・展開の参考にします。

Questions	Evaluation (Circle one) あてはまる ←      → あてはまらない
1. 全体的に見て、この授業は自分にとって有意義だった。	4    3    2    1
2-1. 日本文化について積極的に知ろうとする態度を持つことができた。	4    3    2    1
2-2. 異文化について積極的に知ろうとする態度を持つことができた。	4    3    2    1
2-3. 国際的な問題について積極的に知ろうとする態度を持つことができた。	4    3    2    1
2-4. 国際的な問題について積極的に考察しようとする態度を持つことができた。	4    3    2    1
2-5. 調べたことや考えたことを英語を用いて積極的に発表する態度を持つことができた。	4    3    2    1
3-1. 毎週の新聞切り抜き課題は自分にとって有意義であった。	4    3    2    1
3-2. Looking at the world のプリントを使った活動は自分にとって有意義であった。	4    3    2    1
3-3. 日本文化のプレゼンテーションは自分にとって有意義であった。	4    3    2    1
3-4. 外国事情のプレゼンテーションは自分にとって有意義であった。	4    3    2    1
3-5. 国際的課題のプレゼンテーションは自分にとって有意義であった。	4    3    2    1
4-1. この授業の内容は3年次の学びにも役に立つと思う。	4    3    2    1
4-2. この授業の内容は卒業後の学びや生活にも役に立つと思う。	4    3    2    1
4-3. 後輩にもこの授業を選択することを勧めたい。	4    3    2    1
5. この授業を振り返り、感想・有意義あるいは無意味だと感じた点とその理由・来年度に向けての改善点などについて自由に書いてください。(書ききれなければ裏面を使ってもよい)	

協力してくれてありがとう。





**1. Brainstorming** Answer the following questions.

- 1) Do you like pork? { Yes / No }
- 2) How much pork do you eat in a year? Choose one that is closest to your guess.  
a) 1kg      b) 10kg      c) 20kg      d) 50kg      e) 80kg
- 3) Look at the table below. What information can you get from the table? List as much as possible.

	(Unit: 1,000 tons)	in 2007	in 2011
	Production of pork in Japan	1,250	1,285
	Consumption of pork in Japan	2,473	2,497

(The data is adapted from *USDA: World Markets and Trade* (in selected countries),  
 cited in <http://mors.nywmc.com/study/soyabark.htm>).

- • •

**2. Reading** Read the article and answer the questions.

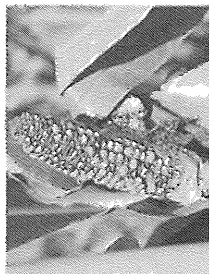
### The Price of Pork

Last week, bacon lovers around the world received some bad news. The news sent bacon National Pig Association on September 20 warned of a global pork shortage. There will be plenty of But fans of the salty breakfast meal can rest easy. There will be plenty of pork products on supermarket shelves, but their price will increase slightly.

### The Pig Problem

News of a pork shortage began sizzling after a report claimed that pig herds around the world are "declining at a significant rate." The report also said that the high price of corn, which is used to feed pigs, is hurting farmers. Britain's National Pig Association, a group that supports farmers, issued the report. Richard Longthorn, the group's chairman, declared the problem "unavoidable."

Pork-buying programs have been created to help keep pig farmers in business. The National Pig Association started a campaign called "Save Our Bacon." It encourages people to buy bacon from nearby stores to support local farmers.



## The High Cost of Corn

The drought in the United States is a big part of the problem. A drought is a period of dry weather. Crops such as corn and soybeans that grow in Midwestern states were hit hardest. Because there is less of it, the price of corn has risen. This makes it more expensive for farmers to raise their herds. This increase in cost has caused the price of bacon and other pork products to increase by as much as 10%.

The bottom line? eBacon lovers will feel the effects on their pocketbooks rather than their stomachs.

"If the definition of shortage is that you can't find it on the shelves, then no, the concern is not valid. If the concern is higher cost for it, then yes, [the concern is valid]," said Steve Meyer of the National Pork Producers Council in Washington, D.C.

Adapted from the article by Cameron Koudy with AP reporting (2012). In: *Time for Kids*. October 01, 2012. <http://www.timeforkids.com/news/print-page/500363>

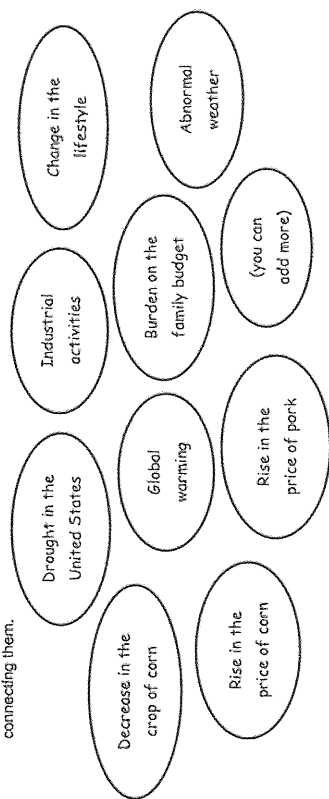
<Questions>

- 1) Look at the underlined sentence A. What was the "bad news"? Choose one.
  - a) The amount of pork would be short globally.
  - b) The price of pork would be higher globally.
  - c) The quality of pork would be lower globally.
- 2) What does the underlined sentence B mean? Choose the closest one.
  - a) We can buy pork at almost the same price as before.
  - b) The supermarkets will have almost the same amount of pork as before.
  - c) The quality of pork will not change.
- 3) Look at the underlined sentence C. What kind of campaign is "Save Our Bacon"? Choose one.
  - a) Telling people to stop buying pork.
  - b) Telling people to buy imported pork.
  - c) Telling people to buy pork at local shops.
- 4) Look at the underlined word D. What does "that" refer to?
  - a) The drought in the United States.
  - b) Corn.
  - c) The higher price of corn.
- 5) What does the underlined sentence E mean? Choose the closest one.
  - a) The amount of pork you can get won't change so much, but the price of pork will be higher.
  - b) The price of pork won't change so much, but the amount of pork you can get will be less.
  - c) The amount of pork you can get will be less, and the price of pork will be higher.

3. **Get something from the text** Read the article again, and do the following activities..

<Discussion>

1) [Think individually] Illustrate the connection among the phenomena listed below by arranging and connecting them.



2) [Discuss in groups] What can we do to solve the problem of the rise in the price of pork? Discuss and make a plan for solving the problem with your friends and share your idea(s).

(Plan for solving the problem)

(What we need to implement the plan)

(Problems that may occur if we implement the plan)

Class 2. No. Name

